

知財の広場

注目の知財キーワード「IPランドスケープ」

4月から知財ナビゲーターとして勤務しています田中和男です。初めての寄稿となりますが、よろしくお願い致します。

今回取り上げる話題は「IPランドスケープ」です。昨年以降、知財業界では話題を集めているキーワードですが、お聞きになったことはありますか？きっかけは、2017年7月17日に日本経済新聞朝刊で『知財分析 経営の中枢に』「企業が抱える知的財産を分析し、経営戦略に活かす「IPランドスケープ」と呼ばれる手法が注目されはじめた。」という記事が掲載されたことでした。「IPランドスケープ」の定義はまだ確立していないようですが、同記事では“知財分析の手法と、同手法を生かした知財重視の経営戦略”と説明されています。知財情報を活用して、新規事業開発の方向性を検討する・マーケティング戦略に活かす・M&Aや連携先企業の選定に利用する、などの活用が考えられます。広義には、知財戦略を経営戦略や研究開発戦略と一体化させ経営課題の解決にあたる、と解釈してもよさそうです。

本格的に「IPランドスケープ」を実践することは技術面や費用面からも容易ではないのですが、知財活動を経営に活かすとの考え方は経営資源が十分でない中堅・中小企業等こそ意識すべきです。知財課題を認識せず事業を行ったために損をしていないか、知的資産を経営資源として認識できているかなど、中堅・中小企業等こそ、経営に資する知財活動を実践することが重要です。

知財総合支援窓口では、単なる知財の支援だけでなく、経営の専門家（商工会、商工会議所、金融機関、よろず支援拠点、中小企業診断士など）と連携し、知財と経営を面で捉えた支援を行っていきますので、ご活用下さい。

知財ナビゲーター 田中 和男



写真は、筆者撮影のニューヨーク・エンパイアステートビルディングからのランドスケープ（風景・景色）。何事も鳥の目で、全体を見渡す必要があります（このあと虫の目・魚の目と続きますね）。